



2013 年 11 月 1 日

各 位

会 社 名 ハリマ化成グループ株式会社
代表者名 代表取締役社長 長谷川 吉弘
(コード番号 4410 東証第一部)
問合せ先 常務取締役 金城 照夫
(TEL. 06-6201-2461)

第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績との差異および

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2013 年 5 月 10 日に公表しました 2014 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(2013 年 4 月 1 日～2013 年 9 月 30 日)の業績予想と本日公表の実績値との差異および最近の業績の動向等を踏まえ、2014 年 3 月期の通期(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)の連結業績予想を修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 業績予想値と決算における実績値との差異について

2014 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績の差異(2013 年 4 月 1 日～2013 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円, %)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	35,000	1,000	900	450	17.34 円
今 回 発 表 実 績 (B)	36,030	327	798	△198	△7.67 円
増 減 額 (B - A)	1,030	△672	△101	△648	—
増 減 率 (%)	2.9	△67.3	△11.2	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (2013 年 3 月期第 2 四半期)	32,906	443	△215	△534	△20.61 円

II. 差異が生じた理由

当第2四半期累計期間の業績は、欧州景気低迷の影響を受け、欧州を主力市場とするローター社の業績が、依然として厳しい状況ですが、円安の影響により海外売上高が増加し、売上高につきましては、前回の予想を上回りました。

一方、海外から調達している当社の主原料が円安の影響で価格が上昇し、製品価格への転嫁に努めましたが、国内業績は厳しい状況が続きました。

その結果、営業利益につきましては、前回の予想を下回りました。為替差益を4億1千6百万円計上しておりますが、経常利益も前回の予想を下回りました。

また、四半期純利益につきましては、2013年8月2日公表の「特別損失（固定資産売却損）の計上に関するお知らせ」に記載のとおり、固定資産売却損を特別損失に計上したため、前回の予想を下回り、赤字の実績となりました。

Ⅲ. 業績予想の修正

2014年3月期通期連結業績予想数値の修正（2013年4月1日～2014年3月31日）

（単位：百万円，％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想（A）	73,000	2,100	1,900	1,000	38.54 円
今 回 修 正 予 想（B）	73,500	1,200	1,600	100	3.85 円
増 減 額（B－A）	500	△900	△300	△900	－
増 減 率（％）	0.7	△42.9	△15.8	△90.0	－
（ご参考） 前期実績（2013年3月期）	64,203	576	1,421	216	8.33 円

Ⅳ. 修正の理由

世界経済は、緩やかながらも上昇すると見込まれますが、欧州の債務問題や米国の財政政策の影響、中国経済の先行きなど不透明な状況が続いております。

このような環境下、当社グループは、欧州市場を主力とするローター社の業績が依然として厳しい状況ですが、円安の影響もあり、海外売上高が増加し、売上高につきましては、前回の予想を上回る見込となりました。

一方、主原料の価格上昇に対応するため、製品価格への転嫁等、全力で業績回復に努めますが、国内業績は厳しい状況が続く見通しのため、営業利益につきましては、前回の予想を下回る見込みとなりました。経常利益も為替差益を第2四半期実績程度見込んでおりますが、前回の予想を下回る見込となりました。

また、当期純利益につきましては、固定資産売却損を特別損失に計上することにより、前回の予想を下回る見込みとなりました。

※上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上